

女勇者パーティーを襲う  
ゴブリンに転生したら、

逆にボクの巨根が襲われる話。

R18





エロバトルン文庫



## 登場ヒロイン

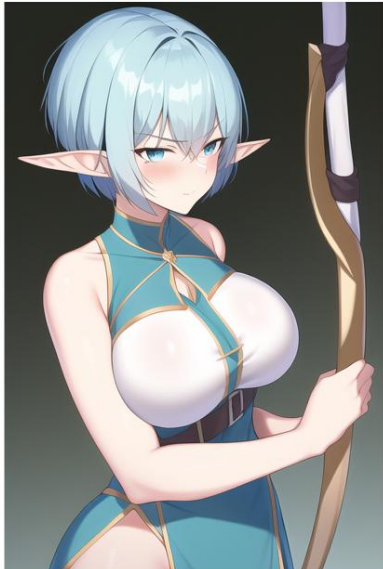
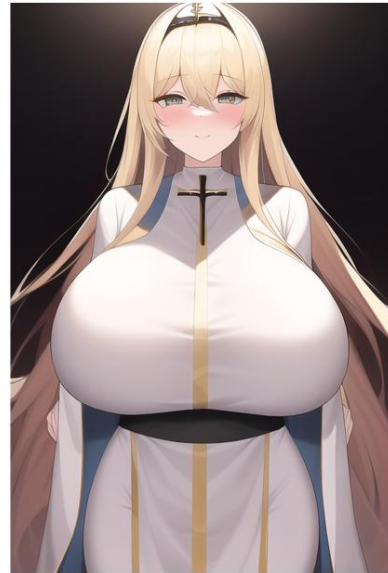


### 女勇者モモコ

異世界召喚されて魔王を倒した黒髪の爆乳勇者。主人公のデカちん●を狙っている。

### 僧侶シオン

金髪爆乳のプリースト。ゴブリンもターゲットにするほど淫乱な性格。主人公の巨根を狙っている。



### 魔法使いエリン

高貴な血筋のエルフ。欲求不満でドSな魔法使い。ゴブリンを狩るのが趣味で主人公の巨根を踏みつける。

## 登場ヒロイン2



### セレス姫

ゴブリンにさらわれた  
ポニーテールのお姫様。  
勇者たちが探しに来たが  
実は魔王より強いとの噂。

#### ■ あらすじ

女神のやらかしで最弱モンスター  
【ゴブリン】に転生してしまった！  
そのうえ転生特典は巨根だけ……  
こうなったら、巣穴に侵入してきた  
女冒険者を襲ってやる！だけど、  
勇者のおねえちゃんから、この異世界で  
巨根なのはボクだけと聞かされて……  
ボクの巨根を狙うのは魔王討伐した  
爆乳女勇者、淫乱女プリースト、  
ドS美女エルフの痴女パーティー。  
さらに、さらったお姫様にも秘密が……  
ボクは生き残ることができるのか？

女勇者パーティーを襲うゴブリンに転生したら、逆にボクの巨根が襲われる話。

1. 転生したらレベル1のゴブリンだった。しかも、レベル99の勇者のおねえちゃんに童貞巨根を狙われる！

「それでは転生の特典は、でっかいおちんぽということだ！」

薄暗い巣穴の中で前世の記憶を取り戻したボクに、光り輝く女神さまはそう告げると消えてしまった。

事故にあって死んだボクが異世界に転生したのは、最弱モンスターのゴブリンだった。

しかも、前世の記憶がよみがえったからと現れた巨乳の女神様に、このファンタジーな世界を生き抜くための特典として与えられたのは巨根だけ。

つまりはボクの股間にぶらさがる、でっかいちんぽ。

「これで、どうやって生き延びろと？？？」

いろんなことが理解できぬまま、呆然としていると同じ巣穴のゴブリンが叫びかける。

「おい！おんなだ！おんなぼうけんしゃたちがきたぞ！！」

巣穴に女冒険者が侵入してきた……

「はあ……」

慌てふためく仲間のゴブリンたちをぼうぜん見つめながら大きくため息をつく。

どうやら、ボクは元人間で女神のやらかしでゴブリンに転生してしまったらしい。

その謝罪で受け取ったチート能力が……ただの巨根。

前世でも童貞だったボクは、異世界でも童貞のまま生涯を終えそうだ……

「ちくしょおおおおおおお！こうなったらゴブリンとして女冒険者を襲ってやるうううう！！」

「あれ？威勢がいいゴブリンもいるんだね♥」

可愛らしい声が耳元で聞こえた。

「おわ！なにものだ！」

振り向くと、そこにはさっきの女神さまよりもでっかいおっぱいが揺れていた。

前世でも見たことのないほどの大きくてやわらかそうな爆乳だ！

「うふふ♥かわいい……やっぱりゴブリンは他の魔族よりエッチでかわいいよね♥あたしはモモコっていうの♥これでも勇者なんだよ？」

長い黒髪的美少女が、ほとんど防御力が無さそうなエロい鎧に身を包み、前かがみで爆乳の谷間を見せている。

「お……おまえが勇者！？」



「うん♥そうだよゴブリンくん♥魔王を討伐した帰り道にね.....このあたりのゴブリンたちが、お姫様をさらったって言うから取り戻しに来ただけ.....」

え？魔王を討伐した帰り道？

「……つかぬことをお聞きしますが、レベルはおいくつですか？」

「99だよ！レベリングが趣味だったからね♥魔王倒す前にあげまくっちゃった  
ら……魔王を1ターンで倒しちゃってちょっと拍子抜け」

うん……詰んだ。ステータス画面のボクのレベルは1だったからだ。

「それよりもさ！キミ！転生者だよな？」

「ふあ！？なぜそれを！」

「だってずっと日本語話してるじゃん♥あたしもあたしも♥こっちに召喚された  
から転移者？っていうのかな。とにかく日本語とか♥チョーなつかしー♥」

女勇者が転移者だと！？これなら事情を話して保護してもらえるかもしれな  
い！そう思っていた矢先だった。

ドサッ

「はあ……こいつらもダメダメです……せっかく襲ってきてくれたのに……  
ちょっとおちんぽおしゃぶりしただけで、このざまなんですよ？」

「あふ♥あふ♥おんなぷりーすとさまのおくち♥きもちよすぎましゅ♥♥♥あふ♥あ  
ふ♥」

投げ捨てられたのは、哀れに絶頂したなかまのゴブリン。

この世界のゴブリンは醜悪というより、耳が長いただのクソガキみたいな魔  
物だ。

童貞臭いゴブリンたちは、童貞キラーの女冒険者たちから時おり交尾させて  
もらえることがあるらしい。





ただ可愛くてもモンスターだからという理由で、容赦なく搾り取られ再起不能になるという.....

そしてなかまをやったのは、口元についた白い精液をいやらしく舌でなめとるプリーストらしき金髪の巨乳美女だった。

「シオンちゃんもうイかせちゃったんだ♥そのゴブリンのおちんぽどうだった？」

モモコが女プリーストに話しかけている。どうやら同じパーティーメンバーみたいだ。

「可愛いんですけど……ちんぽまで小さくて包茎で、おまけに早漏でした……がっかりです」

「そっかあ、魔王もちんぽ小さかったからなあ……なかなかあたしたちの処女マンコにハメたくなるおちんぽが無いねえ……」

「そうですね……まあこの世界では、このサイズがふつうですから……モモコのいた世界がうらやましいです……はあ……どこかに大きくてたくましいおちんぽはないかなあ……」

金髪の長い髪をかきあげて、ふう♥と艶めかしいため息をあげる女プリーストの目がボクの股間に向けられた。

「ちょ！ちょっと！そのゴブリンなんですか！？」

「え？この子？さっき見つけたんだけど……ってやば！なにこのおちんぽの大きさ！！すごい♥こんな大きなおちんぽ♥あたしが前いた世界でも見たことないよ！」

「へ？」

女勇者のモモコもボクのおちんぽに釘付けになっている。

「ゴクリ……勃起していなくてもこの大きさなら♥勃起したらどうなってしまうのでしょうか？♥♥♥」

「はあ♥それにすごくオス臭い♥♥♥何日も洗って無さそう♥ああん♥ダメ♥臭いを嗅いだだけで……キミのおちんぽに発情しちゃう♥♥♥」

「え？えええええ！？」

ちんぽの前で、爆乳美女が目をトロンとさせて唇から舌をつきだして犬のようにハアハアと荒い息をあげている。

「味見しちやおう♥ちゅ♥ちゅぷ♥♥♥はあん♥包茎ちんぽくっさい♥ちゅ♥ちゅ♥ちゅぷ♥♥♥」

「あーずるいですわ♥わたくしも♥ちゅ♥ちゅぷ♥あ♥ピクンってなりましたわ♥すごい♥だんだん大きく♥」

ちゅぷ♥ちゅちゅちゅ♥♥♥れろおお♥♥♥ちゅぷ♥ちゅちゅちゅ♥♥♥

「ああ……やだ♥やっぱ洗ってないじゃん♥すごい恥垢たまってるよ♥くっさあ♥んふ♥ぜーんぶたべちやおう♥ちゅくちゅく♥ちゅぷうう♥♥♥ちゅちゅうう♥♥♥」

「ああん♥わたくしにも♥それにしてもすごい量の先走り汁です♥♥♥まるでお漏らしみたいにあふれてますね♥♥♥ちゅちゅううう♥♥♥はあはあ♥ほら♥舌でしごいてさしあげます♥しゅるしゅりゅ♥♥」

「うわ！やばい！勇者のおねえちゃんのお口のナカきもちいい♥♥ひっ！プリーストのおねえちゃんの舌が絡まってくる♥♥♥ああ……だめ！勃起する！おちんぽ勃起しちゃう！！！」

ビグンツ♥♥♥♥♥

ブウウウンっ♥♥♥♥ベチイイイ♥♥

「ひゃあああん♥」

「きゃああああ♥」

ビクン♥ビクン♥ビクウウン♥♥♥

ボクのちんぽが女勇者たちのフェラチオのせいで、完全に勃起してしまった。

「うそ……なにこのちんぽ……バケモノじゃん♥♥♥」

「はああああん♥♥♥見ただけで妊娠しそう♥♥♥」

「あう……やめて……勇者のおねえちゃん！ボク初めてだから……おちんぽ破裂しそう……」

爆乳美女がふたりも、ボクのちんぽをしゃぶりあうなんて……童貞のボクには耐えられない……うう……

「かわいい！絶対！絶対この子とセックスする！はあはあ♥ゴブリンくん♥キミの童貞おちんぽあたしがもらっちゃうね♥♥♥」

「え？勇者のおねえちゃん何言ってるの？え？え？」

「ずるいです！モモコ！わたくしもこのゴブリンさんのおちんぽ欲しい！」

「へへーん♥出会ったもの勝ちだよー♥あ♥ああふ♥すごい……ちんぽ大きすぎて……はいんな……ああ♥ああああああ♥♥♥♥」

ちんぽが！おれのちんぽが！勇者のおねえちゃんのおマンコにあたって、ぐにゅって♥あったかくて♥あ♥ああああああ♥♥♥♥

きゅぷ♥にゅぷぷぷ♥♥♥♥にゅっぷん♥♥♥

「はあああああん♥♥♥♥はいった！ちんぽきた！すごい！ふあ♥とんじやいそう♥♥♥♥デカすぎ♥♥♥♥キミのおちんぽすごすぎるよお♥♥♥♥ああああああんイック♥いくいくいく♥♥♥♥」

「へ？へ？はいつてるの？おちんぽおねえちゃんのナカにはいつてるの？あったかい♥あったかいよ♥おねえちゃんのお腹のナカ♥」

初めてのおマンコのナカは、あったかくてぬるぬるしてておちんぽが抱きしめられている感じだった。

きゅんきゅん♥♥♥きゅううん♥♥♥

「あふ♥しまる♥おねえちゃん♥しめつけやばいよ！」

「ごめ、ごめんね.....キミのおちんぽ気持ちよすぎて.....イっちゃった♥」

「え？今のでイっちゃったの？ボクが勇者のおねえちゃんをイかせたの？」

「うん♥イっちゃった♥キミのおちんぽ入れられただけでイっちゃったんだよ  
♥♥♥勇者なのに♥魔王を倒したのに♥こんなゴブリンのおちんぽで即イキし  
ちゃった♥♥♥」

答えると同時に、きゅううん♥♥きゅんきゅん♥♥♥とおねえちゃんのおマンコが  
ボクのちんぽをつよく抱きしめる。

「すごいです♥モモコのオマンコが一発でイっちゃうなんて♥♥♥しかもあんなに  
広がって♥♥すご♥デカちんぽが貫いてるの♥♥♥ふふ♥これは油断できません  
ね♥えい♥」

「ふああ♥なんで乳首！？プリーストのおねえちゃん！はずかしいよお！」

プリーストのおねえちゃんが、ボクの乳首をいじってくる。

「はあ.....ねえ♥ここ気持ちいい？どう？はあん♥」

甘いかおりの声を耳元でささやきながら、白い指が先端をくすぐるように、そ  
してすぐに強く引き伸ばされる。

「ひぎいいいい♥♥♥乳首びんかん♥やめて、プリーストのおねえちゃんやめて  
♥♥♥ちんぽ爆発しそうなのに♥♥♥」

「あああん♥まだダメええ♥♥♥おちんぽかっこよく射精しようね♥早漏お漏らし  
射精はだめだぞ♥えい♥♥」

きゅぶぶううう♥♥♥

「ひゃん♥おちんぽカリ首でしめつけられるう！！勇者のおねえちゃん♥おち  
んぽくるしいよお♥♥♥♥」

「ほんとにい？わるいおちんぽがあたしのおマンコで、あばれまくってるよ♥  
あはは♥かわいい♥♥♥ああん♥すごい♥おちんぽほんと凶悪♥♥♥」

うう♥♥♥.....カリ首とちんぽの根元をしめつけられて、射精できない！

だけど、おねえちゃんの膣肉がボクのちんぽをぞわぞわなぞって♥射精し  
ろって♥命令してくるみたい♥ああ♥乳首もやば！

「ずるうい♥凶悪おちんぽ見せつけるだけでえ♥わたくしにはおあずけだけ  
ですの？ねえ.....じゃあキスしようか？ファーストキス♥フェラチオはいっぱ  
いしたけどお♥わたくしキスはまだですよの♥はああん♥♥」

プリーストのおねえちゃんの乳首責めにも耐えていたけれど.....目の前  
にはお口マンコがボクのベロを狙っていた。

「ひっ♥そんないやらしい舌の動きしないで♥うう.....初めてのキスしたい  
.....プリーストのおねえちゃんのお口とちゅー♥したい！」

「あああん♥ずるいシオンちゃん♥この子のファーストキス取らないでえ♥♥♥」

きゅぷぷううう♥♥♥きゅんきゅん♥♥きゅぷ♥

「だーめ♥キスそっちのけで、童貞うばったモモコが悪いんです♥さあ♥いやら  
しいあなたのお口で♥わたくしとちゅー♥しましょ♥♥♥.....ちゅ♥」



ちゅぷ♥♥♥ちゅちゅ♥ちゅううう♥♥♥れろ.....レロレロレロおおお♥♥♥ちゅぷ  
ちゅうううう♥♥♥♥♥

「んううう！！んううう♥♥♥んうううう♥♥♥んんうう♥♥♥♥」

舌が♥プリーストのおねえちゃんのベロが♥ボクのおくちのナカを犯してくる  
♥♥♥

「はあああん♥♥♥あなたの舌も素敵ですわあ♥♥♥たべちゃいたい♥逃げようとしても無駄です♥わたくしのベロちゅう♥であなたの舌をしごいて♥絶頂させてあげます♥わるいゴブリンさん♥♥♥♥」

「ひっ♥やだ♥あああん♥♥♥んちゅうう♥♥♥ちゅ♥ちゅぷ♥♥♥んんうううう♥♥♥んふ♥うううう♥♥♥んうううう♥♥♥ひゃい!？」

ずぶん♥♥♥ずこずこずこ♥♥♥ずぴゅん♥♥♥

ちんぽが.....うごいてる♥♥♥ちがう.....勇者のおねえちゃんの腰がうごいて、おマンコが♥ボクのちんぽを食べてるんだ.....

「はあはあ♥いい加減にしてよね♥いまセックスしてるのはあたしなんだよ?ほら♥気持ちいい?気持ちいいよね?シオンちゃんのお口マンコで浮気しないで♥キミもキミのおちんぽもあたしのモノなんだから♥♥♥」

ずぶふうううう♥♥♥ずこずこずこ♥♥♥ずぴゅぴゅぴゅ♥♥♥♥

「んんん!!!んうううううう!!!んちゅ♥♥♥んううううう♥♥♥♥♥」

ちゅぷ♥れろれろれおおおお♥♥♥♥ちゅ♥ちゅうううう♥♥♥♥♥

ずぴゅずぴゅ♥♥♥♥ずこずこずこおお♥♥♥♥ずぶずぶうう♥♥♥♥

「いけ!ほらいけ!あたしのおマンコ気持ちいでしょ?シオンちゃんのお口マンコより♥ほんものの勇者マンコのほうが気持ちいいよね?ほらいきなさいよ!いけ!いけ!この童貞ゴブリンめ!」

そうだ.....今のボクはただのゴブリン。勇者に退治されちゃう弱小モンスター。

「あう!だめ♥♥♥女勇者におちんぽ退治されちゃう♥♥♥みじめに敗北射精しちゃうよお♥♥♥ああああ♥♥♥おちんぽきもちいい♥♥♥♥」



ずぴゅ♥♥♥ずこずこずこ♥♥♥ずぴゅぴゅ♥♥♥きゅんきゅん♥♥♥ずぷずぴゅぴゅ♥♥♥♥

「ふああん♥ずるい♥勇者のおマンコのほうがいいの？もう知らない♥ほらいつちやいなさい！わるいおちんぽめ！びゅくびゅくって正義のマンコに中出しして♥敗北射精しちやいなさい！いけええ♥♥♥はう♥ちゅ♥」

ぎゅむ♥♥♥ちゅううううう♥♥♥ちゅぷうう♥♥♥♥ぎゅりぎゅり♥♥♥

(ふぐ！？また乳首い♥♥♥キスしながら♥ほかのおねえちゃんとキスしながら♥♥♥セックス♥きもちいい♥♥♥お口も♥おちんぽも♥あたまのなかまっしろになりゅ.....)

ずぴゅずぴゅ♥♥♥♥ずこずこずこ♥♥♥ちゅうう♥♥♥ちゅぷ♥ちゅうう♥♥♥

「はう♥なまいき♥こんなちんぽ硬くして♥あたしに種付けしようとちんぽ必死じゃない♥♥♥いけ！ほらいけ♥ちんぽ射精しろ！情けない童貞ちんぽで謝罪射精しろ！」

きゅぷ♥♥♥ずこずこずこおお♥♥♥ぷちゅ♥♥♥ちゅ♥ちゅ♥ずこずこずこ♥♥♥

「ふぐうううう♥♥♥♥ひぐううううう♥♥♥♥ちゅ♥ちゅうううう♥♥♥ひぐの♥♥♥ひぐひぐうううう♥♥♥♥♥♥」



「はあ？何言ってるか聞こえないわよ！まさかイク気じゃないでしょうね？ちゃんとイク時はイクっていうの！わかった？ほら♥もっと……」

女勇者が爆乳をボクの胸に密着させて、横を向いたままで女プリーストとキスをし続ける耳元でささやく。

「気持ちいい？いいよね？勇者の♡あたしのおマンコだもん♡童貞ゴ布林くんには、もったいないくらい気持ちいいでしょ？ね♡答えてよ♡気持ちよすぎて中出し種付けしちゃいますって♡♡♡ほら♡言っ♡って♡イっ♡って♡♡♡」

「ふぐううう♡♡♡ひぐひぐ♡♡♡ひぐううう♡♡♡ちゅちゅ♡ひぐのおおお♡♡♡んちゅ♡♡♡ごめ♡♡♡ひぐううううう♡♡♡♡♡」

ズブン♡♡♡♡♡

どびゅううう♡♡♡♡びゅるるるうううう♡♡♡♡♡どびゅどびゅうう♡♡♡♡♡♡びゅびゅうううう♡♡♡♡♡♡♡♡

トドメとばかりに打ち付けられた、女勇者のデカ尻マンコにボクはなすすべなく中出し敗北射精してしまった……

「ああ♡♡♡ああん♡♡♡ちゅ♡ふぐうううう♡♡♡♡♡ちゅぱ♡イッてる……はあ♡はあ♡……」

びゅうびゅううう♡♡♡♡♡びゅるるる♡♡♡♡♡

身体のどこに貯めこんでいるのかわからないほどの精液を、女勇者の子宮にドクドクと送り続ける。

「んはああああ♡♡♡来てる♡イッてる♡♡♡♡♡ゴ布林くんの♡お精子が♡♡♡あたしの子宮に届いちゃってるよ♡♡♡♡♡」

うっとり、ボクを見下ろすメス勇者の瞳はまだ赤く光っている。そして……

「ずるい！ずるい！ずるいです！次はわたくしの番ですわ♡♡♡ね♡ゴ布林さん♡♡♡♡」

ぱひゅ♡♡♡むにゅむにゅうう♡♡♡♡

女プリーストの爆乳がボクの顔をもみくちやにしてくる。

まずい.....逃げなきゃ.....このままでは完全に精液を搾り取られて、なかまのゴブリンみたいにされてしまう！

ちゅ♥ちゅうううううう♥♥♥♥

「ひゃあああああん♥♥♥ゴブリンさん♥いきなりおっぱい吸っちゃダメええ♥♥♥♥」

ボクは女プリーストの陥没乳首の乳輪を思い切り吸い上げて、ひるんだすきに逃げ出すのだった。

やばい.....女勇者やばい.....♥♥♥

～女勇者モモコ視点～

きゅぽん♥♥♥

「ひゃん♥♥♥おちんぽ抜けちゃった♥♥♥あーあ、逃げられちゃった……」

抱きしめていたゴブリンくんのおちんぽが抜けて逃げられちゃった。

でも、ほんとすごいおちんぽ♥あれでズコズコ突かれたらどんなになっちゃう  
んだらう♥それにあの臭いも……クセになっちゃう♥♥♥

「ああん♥まだわたくししてないのにい♥♥♥」

シオンちゃんも、まだやれてないしゴブリンくんにはまだ頑張ってもらわない  
とね♥

「ねえ……お姫様はいた？ここって童貞臭くて早く出たいんだけど……」

「あ、エリンちゃん！ちょうどいいところに来てくれた！」

後から追いついてきたのは、あたしのパーティーメンバーであるエルフの魔  
法使いのエリンちゃん。

ライトブルーの髪でショートヘアの巨乳の可愛い女の子。

「エリンちゃんならこの白い液のあと追いかけられる？」

「え？ま、まあ……ってそれゴブリンの精液よね？」

「ええ……まあ♥でもね！すごいちんぽが大きいんですよ！エリンも見てみ  
たら即ハメたくなりますよ♥ああん♥思い出してもうずいちゃう♥」

シオンちゃんが、必死に説得してくれる。

「うう……勘弁してよ。ゴブリンのちんぽなんて包茎で小さくて童貞臭いだけ  
じゃない……はあ……わかったわよ。そのかわり、そのちんぽ見つけたらエ  
リンの好きにさせてもらおうわよ♥こういうふうだね♥」

「ぴぎゅ♥♥♥ひゃううう♥♥♥イぐううう♥♥♥ふまれていぐううう♥♥♥」

エリンちゃんが、アへ顔でねころがっていた雑魚ゴブリンのちんぽを容赦なくふみつけて強制射精させる。

「あひ♥きもちいい♥♥♥もっとなんれくさい♥♥♥ふぎいいいい♥♥♥あへ♥あへええええ♥♥♥」

「きもちわる……」

エリンちゃんになんども踏まれては射精しつづける雑魚ゴブリン。うん……まあさっきのゴブリンくんなら大丈夫でしょ。

「よおーし！ゴブリンくんのおちんぽ目指して出発よ！」

「おー！」「おー……」

かくして、あたしたちのゴブリンくんのおちんぽを探す旅が始まったのでした。

2. プリーストのおねえちゃんにあまあまパイズリ射精。だが、エルフのおねえちゃんに無慈悲に足で踏みつけられる！

「はあはあはあ……なんとか逃げきれた！？」

ボクは迷路のようなゴブリンの巣穴をひたすら走り、なんとか勇者たちをまいたようだ。

「はあ……正直セックスはうれしいけど……あのままじゃ搾り取られて死んじゃうよ！」

なかまのアへ顔でイきまくった姿を思い出して身震いする。

だけど……

「ボク、セックスできたんだ！しかも、あんな可愛い勇者と……ううん、これもこのちんぽのおかげか？」

あれだけ搾り取られても、まだ恥ずかしげもなく勃起しているちんぽを見下ろす。

「なんかゴブリンにも抵抗なかったみたいだし、これは！街にでたらモテまくるのでは！？よし！絶対逃げ切って人間の街に向かうぞ！！」

「人間の街に出て、ナニをするつもりですか？ゴブリンさん？」

「おわああああああ！！プリーストのおねえちゃん！」

耳元で、巨乳をゆらし立っていたのはプリーストのおねえちゃんだった。

「いつのまに！？」

「ふふふ♥秘密です♥それより捕まえましたよゴブリンさん♥街で悪さしようとしているみたいだからお仕置き……しちゃいますね♥えい♥」

ぷにゅ♥

大きなおっぱいがボクのちんぽを挟み込んだ。

「うわ……プリーストのおねえちゃんのおっぱいやわらかい♥」

ぷにゅ♥もにゅにゅうう♥♥♥

「ふふ♥やっぱりすごい巨根♥それにフェロモン全開のオスの臭いがたまりませんわ♥♥♥ああん♥おっぱいのナカでいっぱい暴れて悪い子ですね♥ほら♥大人しくしてください♥♥♥」

むにゅむにゅにゅうう♥♥♥♥しゅこ♥むにゅ♥むにゅにゅうう♥♥♥

おっぱいが.....おっぱいが！いやらしい大きめの乳輪が、残像残しながらボクのちんぽしごいてる.....

「はあはあ♥ちんぽ♥ちんぽ♥あなたのおちんぽいっぱいシゴいてあげます♥♥♥ほら♥懺悔射精ぴゅっぴゅ♥するまでわたくしのおっぱい放さないんだから♥♥♥」

むにゅむにゅうう♥♥♥もひゅ♥ぷにゅうう♥♥♥しゅこしゅこ♥♥♥

「すごい♥パイズリだ.....ボクこんな金髪美人で巨乳のおねえちゃんにパイズリしてもらってる♥♥♥」

もにゅ♥むにゅうう♥♥♥しゅこしゅこしゅこ♥むにゅ♥むぎゅ♥むにゅにゅうう♥♥♥♥

「ふふ♥そんなにわたくしのおっぱい気に入りました？かわいいですね♥じゃあ♥もう一回キスしてあげましょうか？」

「え？キス！？さっきみたいに？」

ビグン♥♥♥♥♥

「あああん♥おちんぽ正直ですね♥ふふ♥かわいい.....じゃ.....目を閉じて.....」

「は、はい！」

ボクはゆっくり目を閉じる.....まぶたが閉じきる前にちかづいてくる、プリーストのおねえちゃんの厚く濡れた唇。

ぷにゅ♥ちゅ♥ちゅうう♥ちゅ♥ちゅ♥♥♥



「はあ♥んちゅ♥はあ.....んう♥♥♥ン♥ちゅ♥はあああん♥」

やわらかな唇が押し付けられて、甘い吐息が直接ボクの口に注ぎ込まれる。

ちゅちゅ♥ちゅぷ♥♥♥むにゅう♥♥むにゅむにゅう♥♥♥しゅこしゅこ♥♥♥

すごい！キスしながら、おちんちんおっぱいでシコシコされてる！

瞳を開けて見たプリーストのおねえちゃんは、にっこりと笑いながら何度もキスしてくれた。

それと同時に、おちんちんはおねえちゃんの巨乳でシゴかれつつづけている。

「どうですか？わたくしのパイズリキスの味は？お口もおちんぽも幸せでしょう？ほら♥イってもいいんですよ？」

ちゅちゅ♥むにゅうう♥♥♥ちゅちゅ♥もにゅもにゅ♥♥♥ぎゅ♥♥んちゅ♥ちゅぱ♥  
むにゅううう♥♥♥♥

しあわせ.....おちんぽだけじゃなくて、お口も舌も愛されてるかんじがする  
♥♥♥

おねえちゃん♥おねえちゃん♥プリーストのおねえちゃん♥♥♥

「もっとして♥もっと♥おねえちゃん♥おねがい♥♥♥」

「ふふふ♥おちんぽも♥お口も正直ですね♥♥♥いいですよ♥わたくしがあなたのすべてを赦します♥♥♥ほら♥あなたの欲望をぜんぶわたくしに♥ぶっかけて♥♥♥♥」

「お、おねえちゃん！！！」

ちゅぷ♥♥♥ちゅちゅうう♥♥♥しゅこしゅこ♥♥♥むにゅむにゅう♥♥♥ちゅうう♥♥♥  
♥♥♥

れろれおおおお♥♥♥ちゅ♥もむにゅ♥むにゅうう♥♥♥しゅこ♥むにゅむにゅ♥♥♥  
ちゅ♥もみゅ♥むにゅううう♥♥♥♥

「ん♥んううう♥♥♥イって.....ちゅ♥♥♥ちゅううう♥♥♥んうう♥♥♥イって♥♥♥」

イク！イクイク！ベロチューしながら、おねえちゃんのおっぱいにパイズリ射  
精する！イク！

お口気持ちいい！おっぱい気持ちいい！イク.....イク.....イク.....

イク！！！！

もにゅもにゅううう♥♥♥どぴゅ♥♥♥むにゅううう♥♥♥♥どぴゅどぴゅ♥♥♥むにゅう  
ううう♥♥♥ちゅううう♥♥♥♥どぴゅどぴゅどぴゅうううう♥♥♥♥♥

「はああああん♥熱いの♥♥♥おっぱいの中から精液こぼれちゃう♥♥♥ちゅ♥  
ちゅううう♥♥♥キスも♥もっとキスしてください♥ちゅううう♥そう♥いっぱい♥キス  
して♥♥♥♥ちゅちゅうう♥♥♥」

「んうう♥♥おねえちゃん♥おねえちゃん♥ちゅちゅううう♥♥♥」

「ほら♥おっぱいでシゴいてあげますから♥キス♥もっと♥♥♥♥ああん♥わたく  
しも♥イク♥♥♥イっく♥♥♥♥」



ちゅうううう♥♥♥びゅびゅううう♥♥♥むぎゅ♥むにゅううう♥♥♥びゅるる♥♥♥ちゅ  
ちゅ♥どぴゅ♥

「はあはあ.....はあ.....やばい.....これ.....ヤバイ.....」

どちゃ♥

パイズリキスから解放されたボクは、精液と女プリーストの愛液まみれの地面に倒れこんだ。

「ああん♥すごかったです♥わたくしもパイズリキスしながら……イっちゃいました♥ふふ♥気持ちよかったですか？ゴブリンさん♥」

「うう……ヤバイよ！おねえちゃん！おっぱいやわらかすぎて♥あったかくて♥勇者のおねえちゃんのおマンコみたい♥♥♥」

「は？」

ビクッ！！

なぜか急に寒気が！？

それに慈愛に満ちたプリーストのおねえちゃんの瞳が、急に冷たくボクを見下している感じがする。

その時だった……

「いたわねゴブリン！このヘンタイが！！」

ぶぎゅうう♥♥♥

「あひiiiiiiiiii♥♥♥いっぐうううう♥♥♥♥」

びゆるるるうう♥♥♥♥

出尽くしたと思っていたちんぽを思い切り踏まれて、ボクはふたたび射精してしまった。

そのうえ、その精液を思い切りプリーストのおねえちゃんにぶっかけてしまう。

「うぷ……くさ……」

「ちょっと、大丈夫？ゴブリンになにかされたんでしょ？」

ボクのちんぽを踏みつけたのは見知らぬ女エルフのおねえちゃん。ローブを身にまとった魔法使いのようにも見える。

ライトブルーで短めの髪、意思の強そうな巨乳の美女エルフだった。

「エリンさん……ええ、こいつにパイズリキスをさせられまして。散々辱められたところです……」

エルフのおねえちゃんに向かって、プリーストのおねえちゃんがとんでもないことを言い始める。

「え？おねえちゃん何言ってるの？おねえちゃんからキスしてくれたじゃないか！」

意味が分からないよ！

さっきまであんなに優しくかったのに……どうして急に冷たくなっちゃったの？

「やっぱりね。ゴブリンなんて童貞くさいモンスターなんだから！いいわ！エリンが退治してあげる！！」

キッとボクを鋭い目つきで睨みつけ、エルフのおねえちゃんが白い太ももを高くあげる。

……白いパンツが見えた。

「やった！あへえええええええ♥♥♥♥♥」

ぶぎゆる♥♥♥どびゅどびゅううう♥♥♥

ボクのちんぽが容赦なく踏みつけられ、勃起したちんぽからさらに大量の精液がまき散らされる。

「ひゃああああん！汚い！きもちわるい！何なのよこいつら！ちんぽ踏みつけたら、射精して！どんだけマゾなのよ！サイテイ……」

「あ♥ああああ……♥ああ♥♥♥」

痛い……痛い痛いんだけど……なんだろう……女の子の足だからなのか。なんだか……

「うえええ……ゴブリンの精液足にかかっちゃった……このヘンタイちんぽ！早漏！包茎！おまけにちいさ……え？なに？この大きさ……」

ボクのちんぽに目を丸くするエルフのおねえちゃん。

やっぱりこの世界ではこの巨根は相当珍しいののか？

「ふ、ふ～ん♥……大きさはなかなかじゃない……でも♥ほら！」

ぎゅみゅ♥ぎゅぎゅ♥ぎゅ♥

「あひ♥あひいい♥♥♥そんな♥なんどもふまないで……やめておねえちゃん♥♥♥あひ♥」

「あはははは♥そう言いながらちんぽ大きくしてるじゃない！このヘンタイ！踏まれて気持ちいいんでしょ？エリンの足に踏まれておちんぽビクビクしてるよ？」

ぎゅむ♥ぎゅぎゅ♥ぎゅみゅ♥♥♥♥

「あぎ♥いたい！いたいいたい！ああ♥でもへんなかんじ♥あひゅあああああ♥♥♥あひ♥」

びぐんびぐん♥♥♥びぐん♥♥♥

「生意気なちんぽね！エリンの足を押し返すくらい、おちんぽ勃起させてるんじゃないわよ！！ほら！また射精しろ！汚らしいゴブリンめ！」

「ほんと、恥知らずなちんぽですわ……わたくしのおっぱいでイっておきながら……モモコさんのおマンコのこと思い出すなんて……エリンさんもっとイジメてあげてください！」

「ええ、まかせてシオン♥久しぶりにイジメがいのあるおちんぽだわあ♥♥♥おら！どうだ！」

ぎゅぎゅううううう♥♥♥♥ぎゅぎゅうううう♥♥♥♥

「あひゅああああ♥♥♥♥ごめんなさい！あひゃ！いやだ！ごめん♥ごめんなさい！」

「うるさいわね！ピーピー泣くんじゃないわよ！謝罪射精しろって言ってんのだよ！どぴゅどぴゅ汚い子種汁吐き出して、二度と勃起できないようにしてやるんだから！！」

ぎゅむ♥♥♥ぎゅむぎゅむ♥♥♥♥ぎゅふ♥♥♥♥ぎゅうぐうふ♥♥♥♥

「いぎいいい♥♥♥♥きもちいいい♥♥♥♥きもちいいいいい♥♥♥♥♥」

「キモ！いい加減にきなさいよ！なに踏まれて喜んでるのよ！キモちんぽ！」

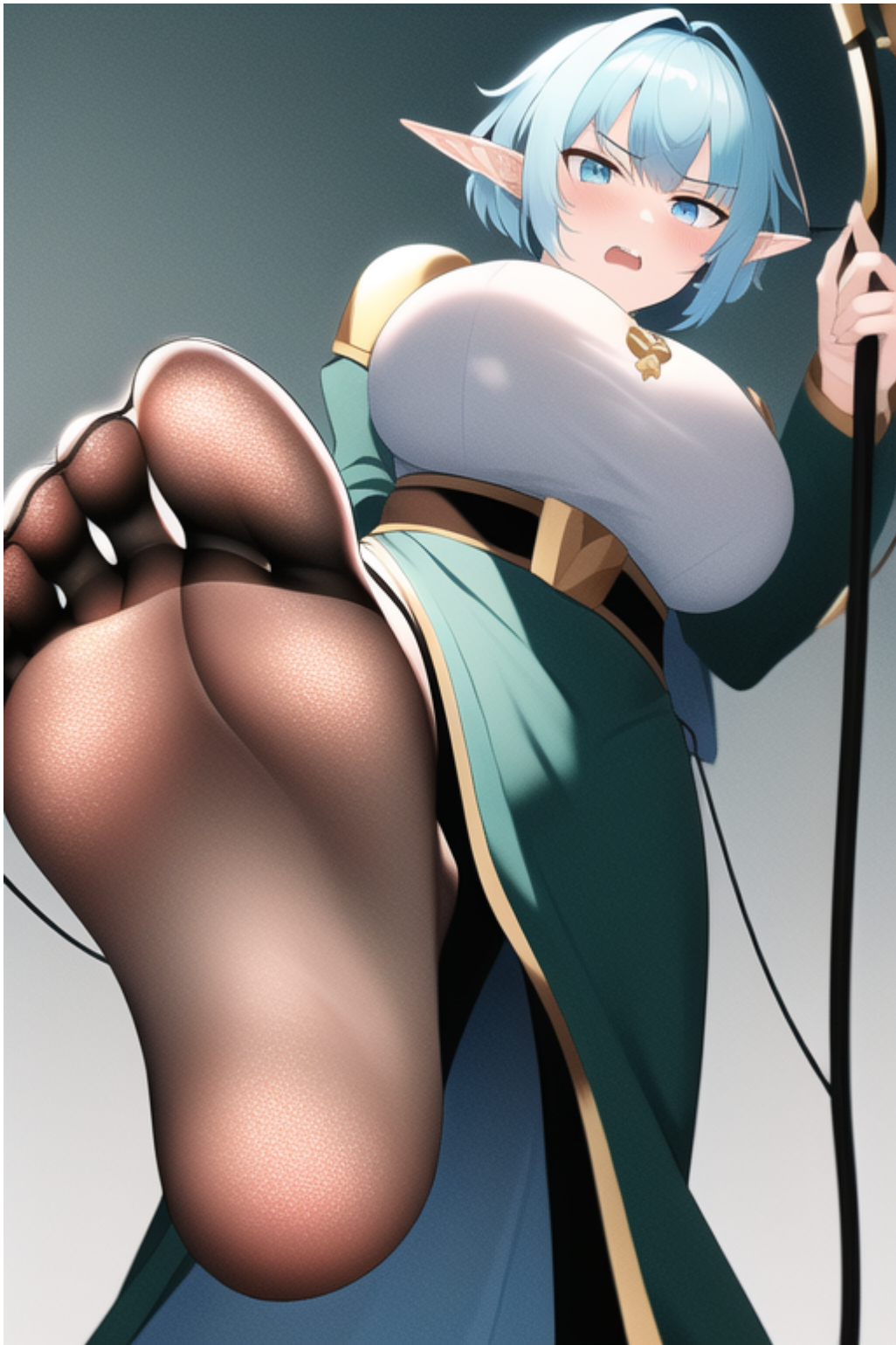
「いいの……エルフのおねえちゃんの足が気持ちいいの……うう……ちんぽいい♥♥♥いいいいいい！！！」

ぎゅふ♥ぎゅふ♥ぎゅふ♥♥♥♥ぎゅふ♥♥♥♥

「ふうん♥そんなにエリンの足がいいんだ♥ふうん♥」

「えへへ♥いいです♥エリンおねえちゃんの足がきもちいいですうう♥♥♥えへ♥あひ♥♥♥もっとしてください♥もっとおおお♥♥♥♥」

ぎゅふ♥ぎゅふふ♥♥♥♥ぎゅむ♥♥♥♥ぎゅぴゅ♥♥♥♥ぐぴゅ♥♥♥♥



「はあ.....だ・か・ら.....それが気持ち悪いって言ってんでしょ！！クソゴブリンが！！！」

ぎゅぴゅぴゅぴゅううう♥♥♥♥♥



「イ♥イグウウウウウううううううう♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥」

どぴゅうううう♥♥♥どぴゅぴゅううううううう♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥

「はあ！はあ！キモい！ヘンタイ！●ね！おら！射精しかできないクズめ！  
はあ♥はあ♥はあああ♥♥♥」

ぎゅぴゅ♥♥♥どぴゅう♥♥♥ぎゅぷ♥♥♥どぴゅる♥♥♥♥ぎゅぴ♥♥♥びゅるるう  
♥♥♥ぐぴゅ♥♥♥どぴゅぴゅ.....

「あひいいい♥♥♥きもちいいい♥♥♥♥ありがとうございますう♥♥♥♥」

何度も何度も、エルフのおねえちゃんに踏まれて精液をお漏らししてしまう。

きもちいい！最高！だけど.....

「ひっ！なんなのよ！こいつ.....嘘でしょ.....」

「うう.....ひどい臭い.....これだけ射精してるのに.....」

ボクのちんぽは.....まだ勃起していた。

「すごい.....おちんぽ♥なんてたくましいの.....ふん！こうなったら徹底的に  
ヤッてやるわ！エルフの誇りにかけてね！！」

「え？」

エルフのおねえちゃんがボクのちんぽを掴んで、ずらしたパンツの中に入れようとしている.....

「は？エリン！ちょっと！なにしてるんですか！？自分が何してるかわかって  
いるんですか！？」

プリーストのおねえちゃんが動揺して、慌てふためいている。

ボクも同じだ。さっきまでおちんぽ踏みつけて罵倒されていたのに.....

なんで？あ♥ああああああ♥♥♥♥あったかい♥♥♥

にゅぷ♥♥♥つぷうう♥♥♥ちゅぴゅ♥♥♥♥ずぴゅん♥♥♥♥♥

「はあああああん♥♥♥♥はいった♥♥♥♥ゴブリンの汚いちんぽ♥いれちゃった♥♥♥♥はああん♥♥♥♥キモ♥キモすぎ♥♥♥♥」

エルフのおねえちゃんがローブを脱ぎ捨てて、巨乳を見せつけてくる。

「ほら？どう？キモゴブリン♥おまえにエリンの処女あげたんだぞ？感謝しなさいよ♥♥♥」

「なんで！ずるい！エリンもわたくしより先に！！」

「はああん♥♥♥♥だってええ♥こんなに踏まれて射精しても♥まだこんなに硬くて熱くて♥たくましいちんぽなんだもん♥♥♥♥女の子ならセックスしたくなるでしょ？」

ぐぴゅ♥♥♥きゅんきゅん♥♥♥♥にゅぷ♥♥♥♥にゅぴゅぴゅう♥♥♥♥

「ああ……やわらかい♥うう♥おマンコのなかふわふわだ……」

「キモ！なにエリンのおマンコで感じてるのよ♥♥♥♥ほら♥さっさと動いて♥♥♥♥あんたが気持ちよくなるんじゃないで、エリンを気持ちよくさせるのよ！」

「は、はい！エリンおねえちゃん！」

パンパンパン♥♥♥♥パンパン♥♥♥♥にゅぴゅ♥♥♥♥パンパン♥♥♥♥

「あひ♥キモ！なに必死に腰つきあげてんのよ！ちんぽまた大きくして！キモいって言ってんでしょ！うええ！ゴブリンのくせに！」

パンパンパン♥♥♥♥にゅりゅ♥♥♥♥パンパン♥♥♥♥にゅぷ♥♥♥♥♥パンパン♥

「ふざけんな！キモすぎ！罵倒されてもまだセックスしたいんだ……どんだけヘンタイなのよ……ほらもっと動けよ！あんたなんか、ちんぽが大きいことだけがとりえなんだから♥」

「うう……はい……」

パアアアン♥♥♥パンパン♥♥♥パンパアアアン♥♥♥

ちゅびゅちゅびゅ♥♥♥♥パアアアアン♥♥♥♥♥

「あははは♥泣きながら腰振ってる♥かわいそう♥ねえ……ほんとキモいんだけど……そんなにエリンを孕ませたいわけ？」

「は、はい……エリンおねえちゃんに種付けしたいです……うう」

パアアアン♥♥♥ぴにゅ♥♥♥パアアアアンパンパン♥♥♥にゅちゅ♥♥♥

「はあ……最悪。エリンはハイエルフなのよ！この世界で一番高貴な血筋なの？わかる？」

エリンおねえちゃんが、思い切り腰を上げて……

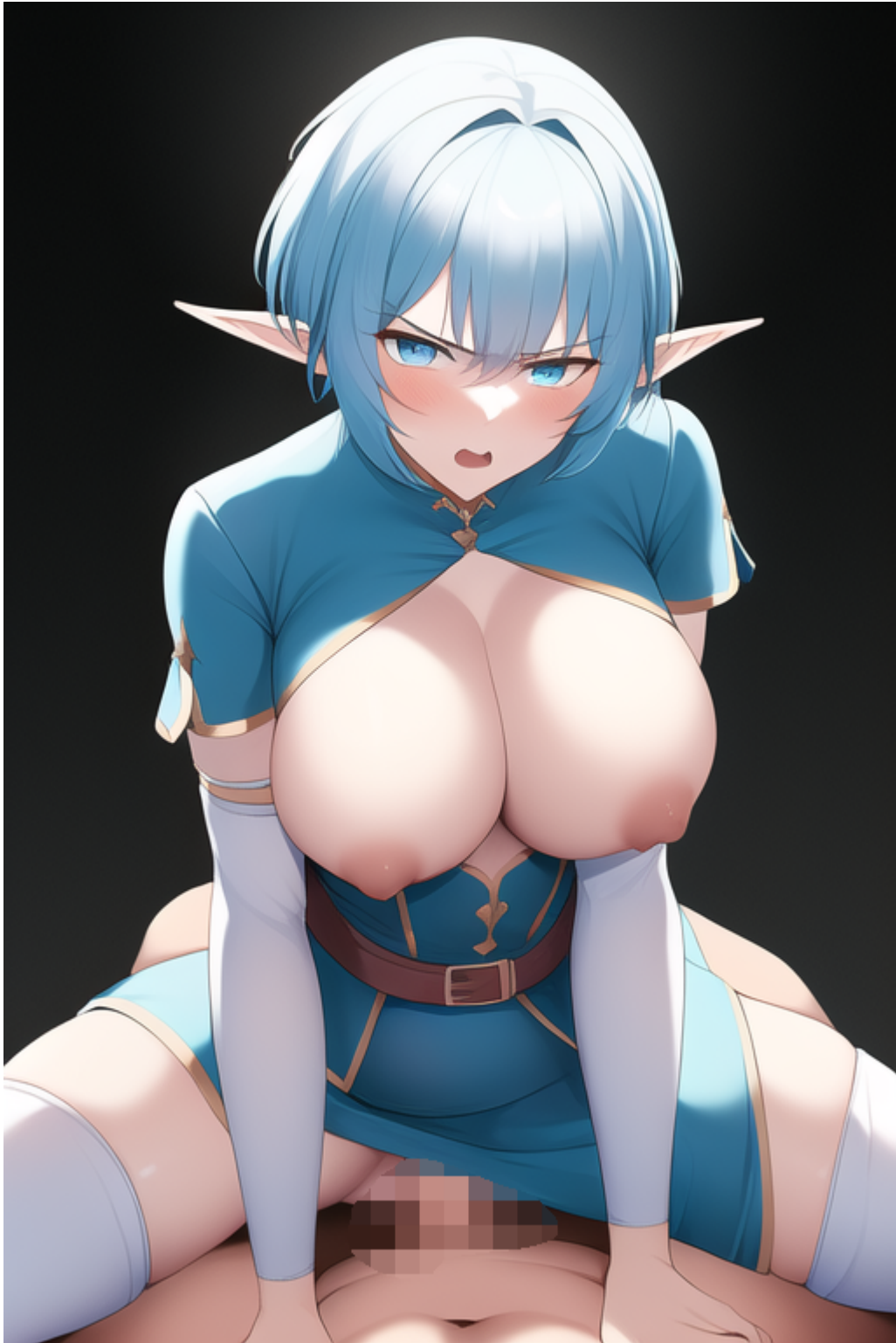
「あんたはゴブリンなの？この世界で一番下劣な種族なの！身の程知りなさいよ！！ほら！イけ！」

ぎゅびゅううううう♥♥♥♥

一気にボクのちんぽに落とすつけた！！

「あひいいい♥♥♥しまる♥♥♥じまるううううう♥♥♥♥ちんぽ♥ちんぽきもちいいいいいい♥♥♥♥♥いっぐううううう♥♥♥♥」

どびゅるるるるるうううう♥♥♥♥どびゅどびゅ♥♥♥びゅるるるるうううう  
♥♥♥♥♥



「ほら.....全部だせ.....キモい精液全部エリンの子宮に中出ししなさい  
♥♥♥♥はああああん♥♥♥♥キツも♥♥♥♥熱い精液ぴゆるぴゆる必死にひねりだし  
てる♥♥♥♥ふふん♥これなら妊娠確実ね♥♥♥♥ざまあみなさい♥♥♥」

どぴゆる♥♥♥どぴゅ.....ぴゅ♥ぴゆるるる♥♥♥

「ちょ、ちょっとエリン！あなた自分で何やってるかわかってんの？」

「当然でしょ？キモゴブリンに種付け……え？あれ？ウソ！こいつ、エリンのお腹に中出ししてるの？やだ！はらんじゃう！やだあああ！！」

ちゅぽん♥♥♥びゅく♥♥♥

エルフのおねえちゃんが、ボクのちんぽを引っこ抜いて必死にナカの精液を掻き出している……ひどい……

「うう……やだあ……なんで？なんでこんなことしちゃったの？うう……この臭いのせいだわ！フェロモンすごすぎて♥あふ♥やだ……まだ♥こいつの精液ほしくなっちゃう……」

ボクのちんぽを再び見つめ、にじり寄ってくるエルフのおねえちゃん。

そこへ、やって来たのは……

「見つけたよ！ゴブリンくん♥♥♥キミのちんぽ……やっぱり危険だね！ここで二度と勃起しないようにやっつけなきゃ！」

勇者のおねえちゃんだった。

「ええ……まさかゴブリン嫌いのエルフまで、魅了されるなんて……これが女の子のあふれる街に出たらとんでもないことになります」

プリーストのおねえちゃんもボクのちんぽを睨みつけながら、なぜか股間をさすっている。

「えへへ♥ちんぽ♥ゴブリンのキモチんぽ♥♥♥しゅき♥♥♥」

エルフのおねえちゃんも、瞳を♥にしてちんぽを狙っていた。

「ひっ！まだ？まだ射精させられちゃうの！？」

期待と不安でボクのちんぽは、女勇者パーティーに向かいさらに大きく振り返ってしまうのだった。

### 3. 搾精地獄！勇者パーティーのおねえちゃんたちにハメられまくって、おちんぽ討伐されちゃう！？

「覚悟しなさい！エッチなゴブリンくん♥女の子の前でもいやらしく勃起させて、恥知らずなキミのちんぽが萎えるまで搾り取ってあげる♥」

「絶対！絶対！次はわたくしがハメ倒しますから！わたくしのおマンコで汚らわしいあなたのちんぽを搾精しちゃいます♥♥♥」

「ちんぽ♥くっさいキモチんぽ♥♥♥エリンがまたぴゅっぴゅ♥させるわ！ふん！感謝して金玉の中ぜんぶエリンのマンコに中出しするのよ！」

ぶるるるん♥♥♥

巨乳を、爆乳を、おマンコを恥ずかしげもなくさらして、女勇者たちがボクのちんぽに向かってくる！

「あ♥うわああああああ♥♥♥♥」

「捕まえた！さあ観念してセックスするのよ！ええい♥♥♥」

にゅぷん♥♥♥

「ああああああ♥♥♥やわらかい♥すごい♥♥♥やっぱり勇者のおねえちゃんのおマンコすごく気持ちいい♥♥♥♥♥」

「あ——！ずるいです！モモコさん！またおちんぽハメるなんて！わたくし……まだなのがいい！うう……はむ♥」

女プリーストのおねえちゃんが、憤りながらもボクの乳首を甘噛みし始める。

「こうなったらさっさとイかせますわ！ほら♥おっぱい舐められるの初めてでしょう？いきなさい♥んふ♥わたくしのおっぱいもさわっていいですから♥♥♥ああん♥♥♥」

おっぱい♥おっぱい♥プリーストのおねえちゃんのやわらかなおっぱいをモミモミしながら、うう♥ボクの乳首吸われてる♥♥♥

「うう♥エリンも入れたかったのにい！じゃあエリンはこっちの乳首♥ちゅ♥ちゅ  
う♥♥はむ♥」

ううう♥♥♥エルフのおねえちゃんまで！おっぱい！エルフのおねえちゃんのおっぱいもモミモミしたい！

むにゅ♥もみゅ♥♥♥もももみもみ♥

「ひゃああん♥キモ！ゴブリンのくせにエリンのおっぱい勝手に触るんじゃないわよ！ヘンタイ！はむはむ♥♥」

「こら！キミはいまあたしとセックスしてるんだぞ♥♥♥今度はしっかり腰を動かして♥キミがご奉仕するの♥♥♥ほら！セックスしろ！ちんぽズボズボしろ！」

「あふ♥は、はい！おねえちゃん！こう？こうですか？」

ずびゅ♥ずぼ♥ずこずこずこ♥♥♥♥へこへこ♥♥♥ずこずこ♥♥♥

「はううん♥へたくそ♥ああん♥ただ、腰振ってるだけじゃない♥これだから童貞は.....でも♥すご♥ちんぽ大きすぎてそれだけでマンコ喜んでる♥♥♥ほら♥もっと動いて♥へたくそピストンでイかせてよ！」

へこへこ♥♥♥すびゅ♥♥♥ずこずこずびゅ♥♥♥へこへこ♥♥

「うう.....きもちいい.....みじめだけど.....きもちいいよお♥♥♥」

「はああん♥そうよ♥みじめなちんぽを入れてもらってるだけで感謝しなさい♥キミは魔王を倒した勇者さまのおマンコ使わせてもらってるの！わかる？ほんとうはキミみたいなゴブリンは、触る事すら許されないんだぞ？ああん♥へたくそ♥♥♥」

へこへこ♥♥♥ずこずこ♥♥♥ずこ♥パン♥♥♥ペアアアン♥♥♥ずびゅ♥

「おねえちゃん♥おねえちゃん♥♥♥きもちいいよお♥♥♥きもちいい.....」

「必死に腰振っちゃって♥あんなに出したのにまだ、ヤリたりないのですね♥  
ああん♥わたくしもはやく欲しい♥♥♥」

きゅぷ♥きゅぷ♥ってボクのちんぽを締め付ける勇者の膣肉。

絶対射精するまで、子宮を精液でいっぱいにして孕むまで♥逃さないといわ  
んばかりにちんぽをシゴきあげてくる。

「うう.....きもちいい.....おマンコなのにシゴいてくる♥でも手コキの何倍も  
♥♥♥きもちいいいいいい♥♥♥♥」

ずこずこ♥♥♥へこへこ♥♥♥♥きゅぷぷぷうう♥♥♥へこへこ♥♥♥♥

「だめだよ！ゴブリンくん♥あたしも気持ちよくしてあげるけどピストン続けて♥  
いっしょにイったら絶対もっと気持ちいいんだから♥♥♥ほら♥ちゅうしてあげる  
♥♥♥」

ちゅ♥ちゅうううう♥♥♥思い切りボクの顔に唇を近づけて、セックスしながらキ  
スまでしてくれる勇者のおねえちゃん♥♥♥

「ちゅ♥ちゅ♥すき.....おねえちゃんすきな♥セックスきもちいい♥おマンコき  
もちいい♥♥♥キスもきもちいいの♥♥♥」

「いやらしいゴブリン♥エリンたちに乳首なめられながらセックスして♥おまけ  
にモモコと恋人みたいなキスまでして♥♥♥ふああん♥うらやましい♥♥♥」

「ほんとですわ♥わたくしがファーストキスの相手ですのに！あんなに情熱的  
にキスして♥おちんぽ出し入れして！！絶対子作りする気マンマンじゃない  
ですか！はう♥いいなあ♥♥♥」

ずびゅる♥♥♥へこへこへこ♥♥♥ちゅ♥ちゅぷ♥はあ♥ずびゅる♥♥♥

ずこずこずこ♥♥♥ずこずこ♥♥♥ぷりゅ♥ちゅ♥ちゅびゅ♥♥♥

おちんぽも、乳首も、お口の中も全部気持ちいい♥♥♥

ああ♥勇者のおねえちゃんも.....



「あ♥いい♥キミのちんぽいい♥♥♥すごい♥おおきい♥すご♥やば♥勇者なのに♥♥♥♥ゴブリンのちんぽで感じてる♥♥♥やば♥イキそう♥♥♥♥」

感じてる！ きもちいいって♥ボクのちんぽで♥

ボクが女の人を喜ばせているんだ！！

「おねえちゃん♥♥♥おねえちゃん♥♥♥大好きだよ♥♥♥おねえちゃん♥♥♥♥」

「いいよ♥うん♥あたしも♥キミが♥キミが好き♥♥♥♥大好き♥♥♥あ♥イっちゃう！キミに♥イかされちゃうの！！！」

ずこずこずぴゆる♥♥♥じゅぼじゅぼ♥♥♥ずこずこずこおお♥♥♥ぴゆる♥ぴゆるる♥♥♥ちゅ♥んちゅううう♥♥♥♥

「イっれ♥んはあ♥♥♥おねえちゃん♥♥♥おねえちゃああん♥♥♥♥イってえええ♥♥♥♥ボクのちんぽでイってええええええ♥♥♥♥」

「イクわ！ キミも♥♥♥いっしょに♥♥♥♥イって♥♥♥ちんぽ♥ぴゅっぴゅ♥♥かっこいい中出しキメて♥♥♥♥いっぱい♥いっぱい精液ちょうだい♥♥♥」

どぴゆるるるるうう♥♥♥♥ドクドクドクウウ♥♥♥♥♥びゅびゅううう♥♥♥♥びゆるびゆるるるうううう♥♥♥♥♥

「孕むから♥♥♥♥キミのあかちゃん孕んであげるから♥♥♥♥あたしといっしょに♥♥♥♥イってください♥♥♥♥♥.....すきな.....♥いくうううう♥♥♥♥」

びゅびゅううう♥♥♥♥♥ドクドク♥♥♥どぴゅ♥♥♥びゅ♥びゅあ♥♥♥びゆる.....びゆるる.....びゅ♥



「熱い♥♥♥すごい♥♥♥やばいの！ちんぽから♥♥♥ゴブリンのちんぽから♥♥♥  
種付け汁でてる！勇者なのに！ゴブリンの赤ちゃん孕むの♥♥♥♥だめえええ  
♥♥♥ぜったい妊娠しちゃうよおおお♥♥♥♥イクウウウウウ♥♥♥♥」

ビグン♥ビッググン♥♥♥♥ビクン♥♥♥ビクビク♥♥♥ビク♥♥♥

勇者のおねえちゃんがエビみたいに、身体を反り返らせていきまくる♥

「すごい♥やばい♥♥♥おねえちゃんこんなに感じてる♥♥♥ボクの精子でお腹がふくれてる♥♥♥やば.....本当に妊娠させちゃう♥えへへ♥やった♥あああ!？」

ズポン♥♥♥♥

まだ、精液があふれでているちんぽが勇者のおねえちゃんのおマンコから引っこ抜かれた。

糸を引きながら、勇者のおねえちゃんのおマンコからも白い精液があふれ出ている。

「すご♥ほんとに中出ししちゃったんだ♥♥♥あひい!？」

ずびゆる♥♥♥ずこずこ♥♥♥

ふたたびちんぽに激しい締め付けが!

「キモ♥なにモモコのおマンコ見ながらにやけてるのよ♥ほら次はエリンの番♥うごけ! ザコちんぽ♥♥♥」

「ふぎいい♥♥♥いったばかりなのに♥エリンおねえちゃんダメ!!」

エリンおねえちゃんが、後ろ向きのお尻をつきだしてボクのちんぽをハメて来た!

ズコズコ♥♥♥ずびゅん♥♥♥ずっぴゅ♥ずっぴゅう♥♥♥

「なにがダメなのよ! まだちんぽ全然硬いじゃない♥♥♥ほら! 休むな! うごけ! エリンを気持ちよくしろ♥♥♥」

「は、はい! わかりました! あう♥エリンおねえちゃんのおマンコもすごい.....すごいきもちいい!!」

へこへこへこ♥♥♥パンパン♥♥♥へこへこ♥♥♥

「ははは♥何言ってんよ♥当たり前じゃない♥♥♥それにしてもほんとへたくそねえ♥♥♥あんたおちんぽ気持ちよくなりたくて、腰振ってるだけでしょ？」

「うう……そうです……ちんぽもっと気持ちよくなりたい……あひ♥」

後ろからエリンおねえちゃんのお尻にへこへこ腰を振りつけまくる。

へこへこへこ♥♥♥ぱちゅん♥♥♥へこへこ♥♥♥パン♥

「ん♥んふ♥ざあこ♥ざあこちんぽ♥エリンはモモコみたいに優しくないからね♥ひとりで情けなくぴゅっぴゅ♥しなさいよ！はあん♥♥♥硬い♥エリンはあんたのちんぽでオナニーするから♥」

「え？でも……これセックスじゃ……あひや♥♥♥」

パアアアン♥♥♥パンパアアアアン♥♥♥パアアアアアン♥♥♥♥

ボクの腰使いを無視して、エリンおねえちゃんはお尻ごとマンコをちんぽ押し付けてくる！

「は？セックス？これが？エリンはあんたのちんぽでオナってるだけなの！勝手にいけば？エリンも勝手にイクから♥♥♥はあう♥ちんぽかたあい♥♥♥ちんぽちんぽ♥♥♥」

パアアアアン♥♥♥パン♥パアアアアン♥♥♥パアアアアン♥♥♥

「そんな♥あ♥イク♥イっちゃう！！エリンおねえちゃんに中出しする！！」



「はああん♥♥♥ちんぽきもちいい♥♥♥あ♥ああ♥いい♥♥イク♥エリンい  
くいく♥♥♥巨根ちんぽでオナニー最高♥♥♥」

「「イク♥♥♥♥」」

どびゆるるるるううう♥♥♥♥びゅびゅうううう♥♥♥♥どびゆるる♥♥♥

「はああああん♥♥♥子宮に熱い精液きた♥♥♥何勝手に中出ししてんのよ！！セックスもできないぞちんぽのくせに！！ふん！もう、いいわ……ハイ交代」

エリンおねえちゃんは、「やば、マジ最悪……」とぼやきながらボクの精液を指で掻き出していた……

「うう……ひどい……はう♥♥♥♥」

「やっと♥やっとです♥♥♥ゴブリンさん♥♥♥わたくしも極太おちんぽで、女になる時がきましたわ♥♥♥」

「プリーストのおねえちゃん！？」

「ふふふ♥大丈夫ですわ♥♥♥わたくしはエリンと違います♥優しく抱きしめてあげますわ♥♥♥いくら薄汚い最下級モンスターのゴブリンさんでも♥わたくしの慈愛は深いんですよ♥♥♥うふふふ♥♥♥」

「目が……なんか……目が怖いんだけど……ひぎ♥♥♥」

「はぐ♥♥♥はううううん♥♥♥すご♥あ……は♥はいりました♥♥♥わあ♥♥♥あふ♥♥♥すご♥ちんぽ太い♥♥♥♥」

ずびゅびゅびゅ♥♥♥ずぶぶぶぶ♥♥♥ぶひゅ♥♥♥ずっく♥ずこずこ♥♥♥

「はああああああん♥♥♥すこし……いたいですわね……でも♥♥♥はああん♥♥♥すごい♥これがおちんちん♥♥♥ああ……頭の芯までビリビリくる♥♥♥」

「すごい……おねえちゃんのおマンコめくれてる♥」

ボクのおちんちんを離すまいと、プリーストのおねえちゃんのマンコが食いついてくる。

「はあはあ♥♥♥絶対射精して孕むまで逃がしませんわよ♥♥♥さあ♥動いて♥ゴブリンさん♥♥♥」

「う、うん♥ああああ♥きもちいい♥♥♥締め付けがヤバイよ！！あうう♥♥ちぎれちゃいそう♥♥♥♥」

ずきゅ♥♥♥きゅぷ♥♥♥ずつきゅ♥♥♥ずぴゅぴゅぴゅ♥♥♥きゅんきゅん♥♥♥♥

「ふああああ♥♥♥いいですわあ♥♥♥♥もっと♥あああん♥上手ですわよ♥♥♥ほら動いて♥もっともっともっ♥♥♥」

「はい！ううう♥♥♥キツイよおお♥♥♥あうふ♥♥気持ちいけど♥♥♥ああああ♥♥♥おちんぽ取れちゃいそう♥♥♥♥」

ずきゅ♥♥♥きゅきゅ♥♥♥♥ずきゅずきゅ♥♥♥♥きゅぷく♥♥♥ずきゅ♥♥♥

「はああああん♥♥♥まだですわ！まだよ！もっとうごけるでしょ？動きなさい！おちんぽズコズコわたくしに押し付けて♥♥♥♥」

ずきゅずきゅう♥♥♥ずきゅぷ♥♥♥♥ずきゅずきゅ♥♥♥ずずずずうう♥♥♥

「あひ♥らめ♥もう出ちゃいそう♥♥♥♥イっていい？おねえちゃん♥イっていい？」

ぎゅぷぷぷうう♥♥♥

「いたい！いやああ！射精したいのに！できないよお♥♥♥♥」

「ダメにきまつてるでしょう？ほら！まだ動くのです！わたくしをイかせるまで絶対射精させませんわ！！」

おねえちゃんのおマンコが、射精できないほどちんぽを締め付けてくる！

それでも腰の動きが止められない！！おちんぽ♥取れる♥射精したい！！

ぎゅぷぎゅぷううう♥♥♥ぎゅんぎゅん♥♥♥

「ほら♥もっと動きなさい♥♥♥ああああん♥♥♥そう♥わたくしは優しいでしょう？  
いっぱいちんぽ抱きしめてあげているんですよ？うふふふ♥♥♥ね？気持ち  
いいでしょ？」

ぎゅんぎゅん♥♥♥ぎゅぶぎゅぶ♥♥♥きゅんきゅん♥♥♥♥ぐぶ♥♥♥

「うぎいいいい♥♥♥もうゆるしてえええ♥♥♥しゃせいじたいいい♥♥♥どぴゅど  
ぴゅさせてえええ♥♥♥♥おねがいですううう♥♥♥♥」

ぎゅんぎゅううん♥♥♥

「うふふふふ♥♥♥いいですわあ♥もっと泣いて♥かわいい♥♥♥♥ほら懺悔なさ  
い♥♥♥薄汚いゴブリンのくせに♥」

ぎゅぶ♥グポポポポぽおおお♥♥♥♥

「魔王を倒した救国の美女プリーストにおちんぽハメてもらっているんです  
よ？ほら♥もっと鳴いて♥♥♥」

「ひぐううう♥♥♥ゆるじてえええ♥♥♥ゆるじてえええ♥♥♥ちんぽとれちゃう♥♥♥♥  
イかせてえええ♥♥♥精子ぐるぐるまわってりゅのおお♥♥♥♥」

ぎゅぴゅぴゅ♥♥♥ぐぶぶぶ♥♥♥♥ぎゅんぎゅううん♥♥♥♥

「あひ♥イイ♥♥♥かわいい♥♥♥♥泣いてるの♥♥♥かわいい♥♥♥♥大好き♥大好き  
ですわ♥♥♥♥あはああああん♥♥♥イクイク♥♥♥泣き顔キスしてイっちゃ  
う！！！」

ちゅぷうううう♥♥♥♥ぎゅぶぶぷううう♥♥♥♥

「んぐううう♥♥♥♥おねえちゃあああん♥♥♥♥♥」





「イクイクいくうううう」

どぴゅどぴゅ♥♥♥びゅるるるるるううううう♥♥♥♥びゃあああああ♥♥♥♥びゅ  
びゃ♥♥♥どぴゅうううう♥♥♥♥ぷしゅあああああ♥♥♥♥

「「ああああああああああああああ♥♥♥♥♥♥」」

ボクたちはキスをしながら、下半身から大量のお漏らしをする。  
びしゃびしゃに精液と愛液をまき散らしながら、腰の動きはとめられなかった。

ぴゅしゅああ♥♥♥ぴちゅあ♥♥♥ぴちゅああ♥♥♥

「はあはあはあ♥♥♥すごかったあ♥♥♥これがセックスですね♥♥♥♥ああん♥♥♥すごい量の精子♥♥♥これではほんとうに孕んでしまいます♥♥♥うふ♥」

「やば！ふたりともちょー気持ちよさそう！ね♥ね♥ゴブリンくん♥またあたしとやろうよ♥♥♥」

「だめええ！エリンとするの！キモゴブリン！エリンとセックスしてる時より気持ちよさそうな顔して！許さないんだから！」

「いやですわ！またわたくしとセックスするんです！絶対にかしませんわよ！！」

「ひっ！まって！ちょっと休ませて！」

「「「だーめ♥♥♥」」」

「ひいいいい♥♥♥たすけてええ♥♥♥」

ボクの逃走劇が再び始まった。

レベル差のえぐい女勇者のパーティーハーレムが、ボクのちんぽを狙って襲い来る。

「そうだ！ゴブリンキング！ボスのところにいこう。ボスのレベルは60ぐらいだったから、足止めくらいにはなるはず！ひょっとしたらボスのちんぽに興味があつるかも！」

名案を思いついたボクは、巣穴の最深部へたどり着く。

.....だが.....

「はあ.....このゴブリンキングも大したことありませんね.....どこかに私の処女を捧げられるデカちんぽは無いかしら.....あら？」

「え？ボス.....みんな？.....」

「あへえええ♥♥♥おひめさまのでコキさいこうでしゅうう♥♥♥♥」

「おくちでちゅぱちゅぱ♥きもちいいれしゅう♥♥♥」

「ちんぽもうボッキできないよお♥♥♥ぴゅっぴゅできないよおお♥♥♥」

そこに立っていたのは、ブロンドのポニーテールを揺らした美少女。

デカイおっぱいを高貴な赤いドレスで包み込み、右手にはゴブリンキングのちいさなペニスを握りしめている。

彼女のまわりには、たおれて射精しつづけるなかまのゴブリンたち。

「あら？まだ生き残りがいましたのね♥あなたのおちんぽは.....え？すご♥♥♥これです！これをまっていたんです！あああん♥あなたこそ私の運命のゴブリン様です♥♥♥」

ぽい♥

「あびゃあああ♥♥♥」

手にしていた、レベル60以上のゴブリンキングをちんぽごと無造作に放り投げてポニーテールの美少女がボクを抱きしめる。

うう♥やわらかい♥♥♥それにいい香り♥♥♥

「あーセレス姫！もう、探しましたよ！あ♥ゴブリンくんも見つけた♥♥♥」

そこに、女勇者パーティーがやってくる。

「ひっそんな……ボクは……ボクは……」

「うふふ♥運命のゴブリン様♥あなたのおちんぽはどんな味がしますの？」

魅惑的な桃色の唇から、甘い吐息が流れてくる。

「ああ……ボクの冒険はここで終る……あああああ♥♥♥♥♥」

最強で最凶の美少女ハーレムたちによる、最弱ゴブリンのボクの搾精地獄はまだ始まったばかりだった。

サンプル版END

続きは製品版でお楽しみください。

**この作品はフィクションです。  
実在の人物・団体・事件とは一切関係がありません。**

**18歳未満の方の閲覧はご遠慮ください。**

**無断転載・複製・複写・Web上への掲載  
(SNS・ネットオークション・フリマアプリ含む)  
は禁止です。**

読者のみなさん、こんばんは～  
ヘンタイ小説家のエロバトルンです。



作品を最後まで読んでいただき  
ありがとうございました！

これからも、「凌辱」「復讐もの」「ざまあ」「敵女」  
または、「男性受け」「おねショ●」「ふたなり」  
などのジャンルを書いていきます。

よろしければ、フォローや  
高評価、お気に入り登録で  
応援していただけると  
嬉しいです。

感想レビューで、好きな  
ヒロインの名前やエロかった  
シーンを教えてください！

twitterで情報更新中です。  
こちらもフォローを  
よろしくお願いします。



🔍 エロバトルン 検索

\*ご注意CGのみAI生成を使用しています。

[エロバトルン - pixiv](#)

<https://twitter.com/furizumu>



